

横浜市小学校社会科研究会

6 学年部会

## 研修会記録

第 4 号

令和3年 12月 1日

横浜市小学校教育研究会

会長 後藤 俊哉

横浜市小学校社会科研究会

会長 梅田 比奈子

同 学年部長 池田 翼

【提案日時】

11月 10日 (水)

提案 田中 敏嗣先生 (平沼小)

【会 場】

横浜市立平沼小学校

司会 蓮實 聡太先生 (岡津小)

記録 名畑 慧大先生 (帷子小)

『単元名』全国統一への動き～信長が目指した全国統一～

『授業者、提案者より』

### 1 資料に基づく説明

研究会主題に迫るための視点および手立ての説明

① 学習プリントを事前に取り組ませ、理解度の把握を行った。

二枚の勢力図の比較を行うことで学習問題が生まれた。

② 堺だけでなく他の支配地があったことへの気付きから空間的な捉えにつながった。

馬防柵を実際に作って提示したことで信長の戦い方への着目につながった。

### 2 単元の流れについて

① 単元の初めに地図を見せる

② 堺の町の追究

### 3 本時の流れについて

課題「堺を支配した以外の、信長が勢力を拡大できた理由はなんだろう。」

・鉄砲の生産地である国友を抑えているから→他勢力の増大を防ぐことができた

・鉄砲を先に使うことができたから

児童の認識のメインは、鉄砲。堺

### 4 考察

・学習プリントで覚えることが多い→前提があるうえでの展開はできる。

・2枚の大きい資料を使って比較した→子どもの反応が良かった。

・地理的な視点からの意見が出てきた→見たままの意見であるという課題もある

・馬防柵に対しての反応、意見が非常に良かった→理解はできたが思考としては△

### 2 グループに分かれての討議

・単元構成が「信長」メインであるため、秀吉に対しての見通しがあるとなおよい。

・学習プリントの活用によって知識を共有できたという点で成果があったと考えられる。

・「堺を支配した以外に」という文言が思考を引き出したと考えられる。

・2枚の勢力図について、もう一枚(天下統一後)の図があってもよかったのではないか。

- ・戦い以外の側面で堺を取り上げるという展開の仕方もあると考えられる。
- ・学習プリントがあるゆえに、わかることの弊害もある。

西本郷小 副校長 加藤先生より

- ・史実として教師が知っておくべき事項が多々ある。
- その中で意図をもって事項を取り上げる必要がある
- ・資料の提示について1560年、1580年の資料に加えて、1467年（応仁の乱）の時の勢力図も提示する考え方もある。勢力の変化について大きな違いがみられる。
  - ・「以外」という言葉を用いて学習課題を設定するにあたって、教師はどのような意見が出てくるか想定することが大切。

<講師の先生より>

菊名小学校 校長 野間義晴先生

1 比べるという視点

- ・時間軸、空間軸、相互関係という社会科を構成する考え方の中で、歴史学習は時間軸に頼りがちだが、空間軸で考えた点が成果である。
  - ・信長、秀吉、家康を比較する視点を教師が持っておくべき
- 〇〇の時はどうだった？と比較できるように学習の足跡を残すことが大切

2 子どもの発言をつなぐには

- ・一問一答になりがちな歴史学習の中で、教師が子どもの発言をうけて広げる努力をすることが大切
- C21「財力があるから」という意見に対しての問い返し等ができるように教師が資料を用意しておく必要あり

教師の準備によって子どもの問題意識をつなげることができる。

- ・学習プリントについては、子どものよりどころ、発言の根拠にはなりうるが、注入にならないよう注意が必要。

文責 益満 順也（三ツ沢小学校）